

令和元年度 光市青少年問題協議会会議結果報告書

1 会議の名称

令和元年度光市青少年問題協議会

2 開催日時

令和2年2月12日（水）18時～19時30分

3 開催場所

光市教育委員会1階ホール

4 出席者

光市青少年問題協議会委員13名（7名欠席）

5 公開・一部非公開の別

公開

6 会議の議事録（要旨）

（1）会長あいさつ

本協議会では、テーマ「児童生徒の地域貢献活動」、キーワード「自主性」、重点「クリーン光大作戦」のもとに、平成28年度からさまざまな協議を重ねながら、その内容を地域の皆様にもお伝えし、各地域の活動の参考にしてきていただいている。

光市では、現在、9年間を見据えたつながりを重視した教育活動に取り組んでいますが、特に、コミュニティ・スクールの深化・充実を図り、地域とともにある学校を目指しています。そうした中、本協議会では、各中学校区における児童生徒の地域貢献活動の実践事例を発表していただき、私たちの活動の糧にしているところです。

このたびは、室積中学校区の活動事例について発表していただくとともに、光警察署と学校教育課からの所管事項の説明も予定しています。

室積中学校区の発表の後の協議では、できるだけ多くのご意見やご感想などをいただき、今後の活動に活かしていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

（2）役員改選

（3）所管説明

ア 光警察署

- ・管内の少年非行の検挙・補導状況について

イ 光市教育委員会

- ・児童生徒の問題行動等の諸問題に関する調査結果について

（4）これまでの経緯

（事務局）

平成28年度から、キーワードを「自主性」、テーマを「児童生徒の地域貢献活動」、重点を「クリーン光大作戦」として、活動の活性化に向け継続的に支援してきました。クリーン光大作戦が豪雨災害で中止となった年は、関係の地域では子どもたちがボランティア活動でキーワードの「自主性」を發揮し、自分たちにできることを考え、地域のためにがんばってくれました。

令和元年度の「クリーン光大作戦」は、資料の写真からも地域の方々や親子で一緒に積極的・自主的に活動している様子が伺えますが、こうした子どもたちの写真を各地域で撮っていただき、反省会の内容にも子どもたちの活動の様子を入れていただくことで、青少年の活動に目を向けていたいっています。そうすることで、「児童生徒の健全育成」という「目的の浸透」を図ってきているところです。また、各学校には、啓発活動などで積極的に協力していただき、協力体制の広がりが進んでいます。

（5）事例発表（室積中学校）【室積中学校区の地域貢献活動】

ア 室積小・中学校コミュニティ・スクール構想

イ 地域貢献活動の取組み

- ・地域行事①（地踊り練習・盆踊り、室積地区運動会、早長祭・子ども神輿）
- ・地域行事②（敬老のつどい〔しゃつきり体操、室積小学校合奏団演奏、室積中学校吹奏楽部演奏、受付の手伝い〕）
- ・地域行事③（正月準備〔竹の切り出し、門松づくり、連中飾りづくり、藁打ち〕）
- ・地域交流①（三世代交流学習、七草がゆ、昔遊び、七輪体験）
- ・地域交流②（伊保木地区との交流〔田植え、かかしの贈呈、伊保木文化祭準備、稻刈り〕）
- ・地域交流③（高齢者との触れ合い〔ふれあいランチ、絵はがき、年賀状〕）

- ・地域清掃活動①（室積海岸を守る〔海岸清掃、海と日本プロジェクト、松の植樹、室積エコミッション〕）
- ・地域清掃活動②（普賢祭早朝清掃、避難場所清掃、地域清掃ボランティア、通学路清掃活動）
- ・その他（室積探検、保中合同避難訓練、幼保小秋祭り、共同募金）

ウ クリーン光大作戦への参加

【室積小学校】

- ・保護者宛文書による参加の呼び掛け
- ・自治会や子ども会単位で参加
※子どもの参加は、保護者の参加に左右
- ・スポーツ少年団など、校外の団体による参加

【室積中学校】

- ・地区生徒会とPTA地区役員との連携による取組み
- ・午前中の部活動を中止して参加促進
※特に理由がない限り、原則として参加（100%に近い生徒が参加している）
- ・地区での作業後、コミュニティセンターで生徒がゴミの分別作業の手伝い（ボランティア）

エ 全国学力・学習状況調査の質問紙調査の結果

「自分には良いところがある」や「人の役に立つ人間になりたいと思う」、「今住んでいる地域の行事に参加している」の各項目については県や全国の結果より高いが、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考える」の項目については課題

オ 成果と課題

【成果】

- ・地域の方に褒めていただることによる自己肯定感の向上
- ・室積地域への愛着を持つ生徒の増加

【課題】

- ・持続可能な活動方法の模索

(議長)

室積中学校の発表を聞かれ、ご感想やご質問がありましたらお願いします。

(委員)

高齢者との触れ合い活動など、先進的な取組みをされているように思います。今は、少子化ですから子どもの数も減ってきて空き教室などがあるのではないか。高齢者も行き場がなくて引きこもりがちなので、そうした際に、学校で自由に使える場があり、子どもと触れ合えるような機会があるとよいと思うのですが、そうした機会は考えられていますか。

(事例発表者)

室積小学校にはコミュニティルームがあり、地域の方々と触れ合う多くの機会があります。課題は中学校です。本校では、中学生が地域に出て行く活動は数多くありますが、地域の方々に学校に来ていただく活動はあまり多いとは言えません。今、本校で話していることですが、空き教室がありますので、例えば、地域の方が「草を刈ってあげよう」ということで学校に来られたときなど、作業の後、その空き教室を利用し、お茶でも飲みながら歓談できるようになると学校が本当に地域の学校になっていくのではないかと思います。構想は持っていますが、まだ実現していません。

(委員)

その高齢者が室積小・中学校の卒業生だったら、より嬉しいですよね。「懐かしいなあ。ここで学んだよね。」など。そして、それが生きがいにもつながると思います。

(議長)

他にご感想などはありませんか。

(委員)

私は、地域のコーディネーターを担当しています。中学校に行っているのですが、今、言われた空き教室がありません。できれば、「いつでも行って、お茶でも飲めるところがあるとよいね。」という話はしていますが、実現できていないのが現状です。また、室積中学校が言われたように、中学生は地域に出て行くことはとても多いのですが、地域の方々に入っていただくことが少なくて、そこが悩みです。私の行く中学校では、例えば英検とか漢検を中学生が受ける際には、地域の方々にも「どうぞ一緒に受けてください。」と開放していますし、図書室についても「どうぞいつでも借りに来てください。」とお知らせしているのですが、なかなか参加していただけていないのが現状です。室積中学校は、地域に大きなお祭りなどがあつて地域の方々と関わることがたくさんあり

ますが、私の地域にはそうした大きな行事はありません。しかし、幼保・小・中・高校が全部あるので、これらをつなぐ取組みができないか、今、考えているところです。

(6) クリーン光大作戦

(議長)

まず事務局から説明をお願いします。

(事務局)

これまで継続的に支援してきたクリーン光大作戦について、ご説明させていただきます。

中学生の取組みについては、浅江中学校は全校生徒、光井中学校は地区別生徒会、島田中学校はSHP（しましたパッピープロジェクト）、大和中学校は地区別生徒会というように、各学校がそれぞれの方法で取り組んできています。

小学生については、直接地域に出て活動しており、高学年の「参加方法」は家族での参加が最も多く、「活動場所」は家の周りや地域の道が多い状況にあります。また、「活動内容」は草ひき、ごみ拾い、草集めなどが多いようです。

児童の感想ですが、「ゴミ拾い」については、「普段は意識していなかったが、ゴミを探す目で見ると多いのに驚いた。」や「ゴミの分別を体験できてよかったです。」などがあります。「公園」に関連した内容では、「きれいになって、自分たちも遊びやすくなった。」など、やってよかったと実感しています。また、「地域の方々」との関係については、「近所の人と仲良くなれた。」や「お話できてよかったです。」など、つながりが深まった様子が伺えます。最後に、「振り返り」にあたる内容では、「やってよかった。」や「続けていくことが大切と思った。」など、充実感や前向きな感想が見られます。こうした感想からも、子どもたちにとっては、とてもよい体験になっているように思います。

クリーン光大作戦に関しては、これまでクリーン光推進協議会からの啓発を推進してきましたが、今後、さらなる広がりを考えたとき、一層の工夫が必要と思っているところです。

(議長)

ただ今、事務局から小・中学生の取組みについての現状説明がありました、ご意見などをいただきたいと思います。

(委員)

小学校としてですが、やはり小さい子どもは体験しながら学ぶことが大切です。そうした意味では、地域の清掃活動を学校独自で取り組むという方法もあると思います。本校でも、校区のクリーン作戦として通学路の清掃を年に1回実施し、歩きながらごみ拾いや草取りをしています。多くのゴミが集まったときに、「がんばったね。よくやてくれたね。ありがとうございます。」と褒められることで、自己有用感が高まり、「またやってみよう。」という気持ちになり、地域へも出て行って、また同じような活動をする子どもが増えてくるのではないかと思います。アンケートを見ても、草引きやごみ拾いなどを幼い頃から体験しておくことが大切と思いました。

また、先ほど地域を大切に思う心を育てるという取組みのお話をましたが、さまざまな体験活動にどの校区でも取り組んでいますので、その体験を「やりっぱなし」ではなく、「振り返り」を行い、どのようなことを感じたのかという思いを書かせることができます。書くことで自分の思いがはつきりとできます。5、6年生が地域の方々と活動したときに書いた作文を学級担任から見せてもらうことがあります、よいことを書いています。「日頃できない体験ができてうれしい。」や「地域の方に上手だねと褒められた。」「学校のことをいろいろと聞かれ、話を楽しめた。」「地域の方々のお陰でこういう活動ができたので感謝の気持ちを伝えたい。」など、そういう言葉が出ています。こうしたものを作成して、学校全体で共有して、「お世話になっている地域の方々に対して自分たちにもできることがあるのではないか。」「自分たちもできることをやっていこう。」というような指導をしていくものよいのではないかと思います。

最後に、保護者の理解や協力が欠かせないと思います。ポスターを貼ったり、学校だよりなどで呼び掛けたりしていますが、より一層このような活動を確かなものにすることにより、保護者にもご理解やご協力を求めていくことができるのではないかと思います。

(委員)

キーワードが「自主性」、テーマが「児童生徒の地域貢献活動」、重点が「クリーン光大作戦」ですが、これはまさに光市の強みであると思います。大きなねらいとして市をあげて取り組んでいるものと思いますし、この協議会ともうまく連携して進んでいます。コミュニティ・スクールの活動には私自身も光井地区で関わらせてもらっていますが、県の取組みでもコミュニティ・スクールにおける地域貢献は大変重視された活動になっています。そういうところと本協議会の動きも連動しているのだということを感じながらいつもお聞きしています。高等学校としても

「地域とともにある学校であるべきだ。」とか「地域の期待に応える存在になりたい。」といった思いは強く持っています。

そうした中で、高等学校として何ができるかという視点から、高等学校の教育の特色等をうまく使って上手な関わり方ができるとよいと思っています。クリーン光大作戦については、7月に入つてからの日曜日は高校野球の夏の大会の時期で、その応援などで学校全体の取組みにはなかなか難しい面があります。こうした活動の意義を生徒に伝えるとともに、特に、地元の生徒に対しては保護者の理解を得ながら啓発し、関わらせていただいています。また、6月頃には市役所周辺の清掃活動もありますので、学校教育の取組み中で参加しています。

先ほど、室積中学校の発表の中で、「地域や社会をよくするために何をすべきか考える」ことができる子どもを体験・経験を通して育てたいというお話がありましたが、まさに高等学校でも本当に重要な命題で、「これから社会を自分たちで創る」という社会性の基盤を育てたいという思いがあります。生徒は地域でいろいろな大人の方々と関わったり、地域への愛着を持ったり、地域で認められて自己肯定感が醸成されたりするようなことがあります、そうしたことを通して自分が社会でどのように役立つことができるかという思いを強くしていくのではないかと思います。そうしたベースになる部分をさまざまな活動を通して学んで高等学校に入って来ますので、それをしっかりと引き継ぎ、社会で活躍できる人として成長できるためのよりよい教育が展開できるよう取り組んでいけたらと思います。

(委員)

クリーン光大作戦については、室積地区は青少年部の協力を仰ぎながら地域の皆さんと連携して毎年取り組んでいます。

(委員)

室積中学校の事例発表の中で、自主性を重んじるということがありましたが、自分で考えて行動するということは非常に大事になってくると思いますので、こうした子どもを育てていただきたいと思います。

(委員)

今、全国的には祭りが絶えてしまったり、神輿を担ぐ人が不足していたりするということお聞きます。室積には祭りなどの伝統行事がありますが、こうした行事に子どもたちも参加して、多くのことを学んでいるように思います。そうした点で室積地区は恵まれていると思いました。

(委員)

月に2回ほどあいさつ運動で立哨していますが、子どもたちは大きな声であいさつをしてくれます。また、このあいさつ運動には生徒たちも出ています。このような取組みを室積や光井地域では定期的に行ってますが、市全体に広がればよいと思います。

(委員)

クリーン光大作戦の参加啓発についてですが、小学生の参加は保護者の参加に左右されるということが先ほどの室積中学校の発表の中でもありました。アンケートにも、誰と参加するかについては、家族という意見が一番多かったと思います。今、忙しい保護者がとても多くて日曜日でもなかなかお休みになれない方もおられるので、保護者がいなくとも子どもだけでも参加ができるように地域行事や学校行事というかたちができればと考えます。参加することによって、子どもたちと顔見知りになって、「あのおじちゃんがいるから参加しよう。」という気持ちになつてもらえるようになるとよいと思います。

(委員)

昨年12月にアフガニスタンで亡くなられた中村先生は「もし人が道で倒れていたら大丈夫ですかと手を差し伸べる。そんな当たり前のことができる人になってほしい。」と言われていましたが、奉仕の心を持ってクリーン光大作戦に参加するなど、地域に貢献することを繰り返す中で、子どもたちはきっとこうした大人になってくれるのではないかと期待しています。

(委員)

地域貢献活動やクリーン光大作戦を行っていることで、公徳心が育まれているのではないかと思います。非常にすばらしい活動をしていると思いますし、続けていくことで明るく温かい人として育っていくのではないかと思います。

(委員)

この会にご出席いただいている各団体の代表の皆様のご支援やお力添えのお陰で、クリーン光大作戦を中心に地域のいろいろな活動の中に子どもたちの姿を見る能够になりました。子どもたちは地域の中でさまざまな活動に参加しますが、その中で、地域の皆様から声を掛けてい

ただき、励まし、認めていただくことによって自信を深め、次への意欲につながり、地域の担い手としての自覚も高まってきていると感じます。8月にありました全国自然敬愛サミットで、室積地域の方が事例発表されましたが、子どもたちに対する熱い思い、「子どもたちにはさまざまな活動を通して室積が大好きな人に育ってほしい。」という願いが強く伝わってきました。そうしたそれぞれの地域の皆様のご努力によって、今、子どもたちに地域の担い手としての自覚が高まってきているのではないかと感じています。

(議長)

室積中学校の事例発表をもとに、地域貢献活動の様子や意義について、改めて理解を深めることができたように思います。また、クリーン光大作戦については、各地区共通の地域貢献活動であり、私たち委員もそれぞれ所属する団体や機関において今後さらに協力や支援に努めてまいりたいと思います。それでは、最後に、事務局から今後の方向性についてお願ひします。

(7) 今後の方向性

(事務局)

室積中学校の発表やご協議の中でいただいたご意見やご感想等は、後日、事務局から各学校やコミュニティセンターへお伝えします。今後の活動のさらなる充実に活かしていただきたいと思っています。「児童生徒の地域貢献活動」については、今回で市内5つの中学校区すべてからご発表いただきました。各中学校区とも、それぞれの地域貢献活動を自主性の育成・伸長という視点で整理し見直しながら、活動への気運を高めてこられました。また、重点「クリーン光大作戦」については、委員の皆様におかれましても、それぞれの団体や機関等で、啓発活動等をしっかりと広げていただき、今後の子どもたちの参加・活動の促進につながっていくようよろしくお願ひいたします。来年度の会議に向けては、令和2年度のクリーン光大作戦の取組状況の報告とともに、新たな協議内容も含めて準備を進めていきたいと考えています。

(8) 会長あいさつ

ボーイスカウトの仲間が書いた本の中に、「子どもたちはこうして生き方を学びます『アメリカンディアンの教え』」というものが11項目にわたって書いてあります。今日はその中から7つほど紹介させていただきます。「心が寛大な人の中で育った子はがまん強くなります」、「励ましを受けて育った子は自信を持ちます」、「褒められる中で育った子はいつも感謝することを知ります」、「公明正大な中で育った子は正義心を持ちます」、「思いやりのある中で育った子は信仰心を持ちます」、「人に認めてもらえる中で育った子は自分を大事にします」、「仲間の愛の中で育った子は世界に愛を見つけます」。私たち大人も、このような心持ちで子どもたちに接していくことができるとよいと思っています。ありがとうございました。

7 問い合わせ先

光市教育委員会青少年センター（0833-72-2245）